

—スタッフ紹介—

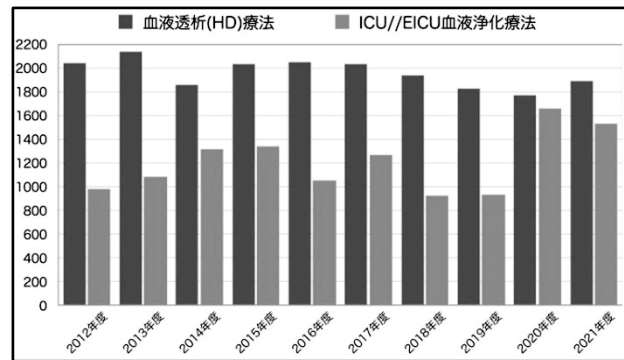
役 職	スタッフ名
センター長兼腎臓内科主任部長	重松 隆(10月から)
腎臓内科 副医長	村津 淳
腎臓内科 副医長	南方 大和
腎臓内科 副医長	和田 龍也
腎臓内科 非常勤医員	松本 直也
センター長	根木 茂雄(9月退職)
看護師	植田 くみ子
看護師	前中 公紀
看護師	岩田 奈緒子
看護師	有村 美由紀
看護師	吉田 江梨香
看護師	高田 澄子
副センター長兼臨床技術部門長 兼臨床工学科長	荒川 昌洋
臨床工学科 主幹	奥田 重之
臨床工学科 主査	町田 麻実
臨床工学科	三角 定弘
臨床工学科	金口 優生
臨床工学科	川崎 勇司
臨床工学科	平田 佳紀

—概要—

血液浄化センターは慢性腎不全患者や急性腎障害に対する血液透析導入や合併症にて入院されている維持透析患者に対する血液透析を主に施行している。近年、高齢化に伴う動脈硬化や糖尿病を合併した患者の増加にともない、血液透析中に頻脈を呈したり、著明な血圧低下を生じる透析患者も少なくない。また、認知症を抱えた透析患者も増加してきているのが現状である。当センターではそういった透析患者に対応すべく、毎朝透析開始前にショートカンファレンスを施行して当日勤務のスタッフ全員で当日の透析患者の状態をできる限り共有し、合併症の生じない安全な血液透析を施行できるよう努めている。

血液透析以外には血漿交換やLDLアフェレシスも必要な症例に対して適宜施行している。腹膜透析患者の管理も透析室で施行しており、現在は6名の患者が月1回通院して加療されている。また、透析室以外ではICU/EICUにおいて急性腎障害を合併した重症患者に対して持続的血液浄化療法(CRRT)や血液透析、ECUMなども臨床工学技士の協力を得て共同で施行している。

—実績—



—今年度の成果—

導入患者への事前訪問

5年前から始めた看護師、臨床工学技士による患者訪問は定着し、透析導入時の患者の不安軽減に寄与している。

フットチェック

5年前より透析導入時に両下肢を写真に収め、専用のノートPCにファイルメーカーを利用してデータ保存、管理している。いつでもスタッフ全員が入力、閲覧でき、データを蓄積、フットケアに役立てている。

バスキュラーアクセス(VA)超音波検査

透析に必要なVA(自己血管・人工血管)造設術およびPTA(経皮的血管形成術)は腎臓内科の医師が施行している。数年前から始めた臨床工学技士によるVA に対する超音波検査はVA 外来時は必ず施行し、バスキュラーアクセスの評価を行っている。また、透析開始時の内シヤント穿刺においてはエコーガイド下穿刺を積極的に施行しており、穿刺の難しい血管の穿刺も可能となった。

災害対策を見据えた近隣施設との連携

近隣の透析施設と交流を深め、完全に顔のみえる関係ができあがった。災害時の透析施設の被災状況を共有するツールとしてGoogle MyMaps、Google スプレッドシートを導入している。

腎代替療法選択外来

腎代替療法(血液透析、腹膜透析、腎移植)が必要な患者に対して、透析室の看護師がそれぞれの治療について詳しい説明を行い、患者が最適な医療を選択できるようサポートしている。

—来年度への抱負—

慢性腎不全、急性腎障害、その他の疾患に対して効果的で安全な血液浄化療法を提供できるよう医師・看護師・臨床工学技士が一丸となって取り組んでいきたい。